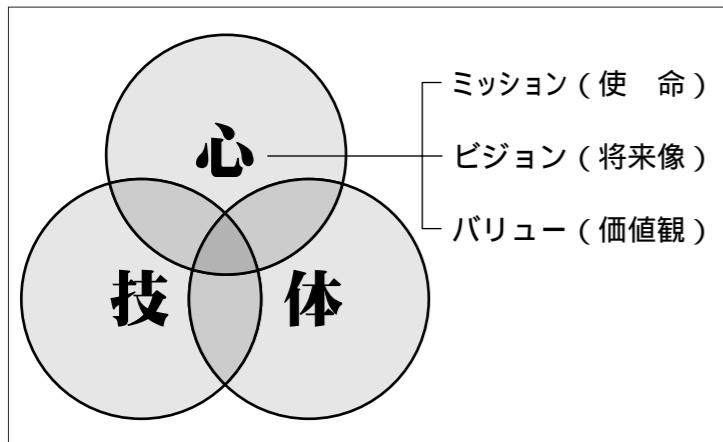


図1



経営理念とは何か？  
経営理念は必要か？

経営(者)には「心・技・体」の3つのバランスが大切です(図1参照)。その中でも、一番大切なものが「心」の部分であり、経営の根幹をなすものであると考えます。

しかし、経営理念といっても

ピーター・ドラッカー(1909年~2005年。オーストリア生まれの世界的な経営学者・社会学者)はこの3つ以外は全てアウトソースできると言っています。つまり、自社でやらなくてもいいと...。それほど重要だということです。

では、日本の先人たちの言葉を聞いてみましょう。

何のためにこの事業をしているのか？その使命は？と問われた、新渡戸稲造氏の言葉は

- 抽象的でわかりづらいので少し整理して、これを3つに分けてお話しします。
1. ミッション(使命)  
『使命』とは、文字どおり「命を使う」こと、つまり、人生をかけて何をするか？
  2. ビジョン(将来像)  
『ビジョン』とは、会社は将来こうなりたいという姿。
  3. バリュー(価値観)  
『バリュー』とは、行動をするときの判断基準。

事業の目的・意義を明確にする  
具体的な目標を立てる  
強烈な願望を心にいだく  
誰にも負けない努力をする  
売上げは最大限に経費は最小限に  
値決めは経営  
経営は強い意志で決まる  
燃える闘魂  
勇気を持ってことにあたる  
常に創造的な仕事を行う  
思いやりの心で誠実に  
常に明るく前向きで、夢と希望を抱いて素直な心で経営する

表1  
京セラファイロソフィー経営の原点12か条  
稲盛和夫著「心を高める経営を伸ばす」より

「われ日米の架け橋とならん」でした。

よく知られる企業の価値観としては、サントリーの「やってみなはれ」、ソニーの「人と違うことをする」などがあげられます。これらは、どれも言行一致であったことがとても重要なのです。

ところが経営幹部の、「やってみれば」の一言を、社員が実践して失敗したら、ひどく怒られたというケースはよくある話です。しかし、そうなれば社員はもう二度と、「やってみれば」の言葉を信用し行動することは

ありません。「心」は通い合いません。

「ウチには経営理念なんてないよ経営理念なんて...どこかウソ臭いな。などという意見は、社員はもとより経営者の方からもよく聞きます。そして、実際に経営理念を「持っている」企業も多いようです。

ウチは利益が出ているから必要ないよ...。

では、経営理念は本当にいらないのでしょつか？

必要だという企業もあれば、不要だという企業もあります。私が、100年を超す社歴を持つ

# 近代中小企業・誌上コンサルティング

## 心・技・体の 経営理念の「心」とは！



日本ランチェスター協会認定インストラクター  
株式会社フォスターワン 代表取締役 さかうえ ひとし 坂上 仁志  
フォスターワンの詳細と活動内容は同社ホームページをご覧ください  
<http://www.foster1.com/> (【フォスターワン】で検索できます)  
「わずか3年で日本一の会社を作る」特別レポートをプレゼント中！

大手企業での業務経験を生かし独立起業。「中小企業の1位作り」をコンセプトとした企業コンサルティングや講演活動を展開すると同時に、派遣会社をゼロから立ち上げ、3年で億単位の利益を生み出す。  
今注目の、「心」の企業理念を説く。坂上氏の誌上経営指南！

こんなことありませんか？  
社長にありがちな傾向です！

- ・自己中心的で、いわゆるワンマン経営者だと思つた。
- ・組織に向いていないし、友だちも少ない。

・社長をやる資格なんてないんじゃないかと思つた。

・売上げをもっともっと、と追いかけても何か満たされない。

など...

しかし一方で、利益の追求だけでいいと思っているわけでもないし...

そうです。社長は、社員とその家族を養っているわけですから、人として何よりも素晴らしい「社会貢献」をしているわけです。

日々ビジネスの最前線であるゆえに困難に立ち向かい戦い続ける経営者のみなさんに、40代の私の言葉など取るに足りません。しかし、私の尊敬する先人たちの知恵を少しお話しさせていただきます。私自身も、彼らの言葉に勇気づけられ、それらを自分なりに実践しビジネスに活用して今日に至りました。

古くより日本人は、金や結果より大切なものがあると信じて生きてきました。現代風に言いかえると、それは「経営理念」にもつながるのです。

参考情報と文献

- ・盛和塾（京セラ会長の稲盛和夫氏主催の経営塾）
- ・特定非営利活動法人ランチェスター協会
- ・「ドラッカー365の金言」/ P.F.ドラッカー著（ダイヤモンド社）

つ老舗企業を、数十社取材してわかったことがあります。それは、「理念がなくても企業は100年以上続く」ことです。しかし、書面にした理念はなくとも、その企業の毎日の言動が「企業理念」そのものとなっているのです。

**事業の目的と意義を明確にする**

前ページ表1を参照してください。

「1. 事業の目的・意義を明確にする」。まず一番はじめに、この項目がくる事が大切です。事業を始める目的が私利私欲のためだと、「どつせ社長の金儲けの為でしょ」と社員から言われて終わりです。返す言葉がありません。従業員も不幸です。ですから、なぜこの事業をするのかという問いに対して、よどみなく答えることが必要なのです。こういう目的のために事業をしていると自分自身に言い聞かせる為にも、そして、社員にハッキリと言える為にも、目的と意義を明確にすることが重要です。

理念と利益の関係とは？

中小企業庁の調べでも、「理念」のある会社の方が「利益」を出しているという結果が出ているようです。「利益」を出す為に「理念」を作るといっても、「理念」を持って経営した結果が「利益」につながると考えた方が自然のようです。

企業理念とは、相手（顧客）を思う顧客重視の考えに立ったものです。これは、「自利利他」人によくすることが自分にとってよくなること（にも共通します）。「資本主義社会でそんなに甘いことをいっていてもダメでしょ。利益が出なければ仕方がないじゃないか」と言われるかもしれない。しかし、他を助けてあげることができなくては、決して自分がうまく行くはずがないのです。

損得より尊徳の考え

思い出してください。自分が事業ともいえないような、家業を始めたころのことを。早朝や深夜の納品に、「本当にありがとう。これで助かったよ」と、

お客様に喜ばれ純粋に嬉しかったとき。はじめて仕事をくれたあの人。あの時、助けてくれたあの人。誰でも誰かに助けられて今日があるのです。

純粋に「あの人のために！」。そんな思いがいつの間にかなくなり、利益だけが目的となり、「心」がなくなってしまうことがあります。ところが、体が覚えていて、言葉では言えないけれど、あの感覚は覚えている。それを上手に表現したものが、「経営理念」なのではないでしょうか。

自分の「損得」よりも「尊徳」

「至誠の感ずるところ天地もこれのために動く」は、「二宮尊徳」の言葉です。自らの事業に「よどみ」がなければ、人は助けてくれるものです。

因果の法則について

原因と結果の法則は、洋の東西を問わずに宇宙の法則とされ

ています。それは、「まいた種は必ず刈り取られる」（聖書）ということ。仏教で言うところの「因果の法則」です。「見返りを期待せずに尽くせば、尽くすほど、思わぬところで報われることが多い」とは、全米でトップ5に数えられる有能な講演家、ブライアン・トレーシーの言葉です。

このことに気づいている経営者は幸せです。企業経営を長くしてきて、そういえばあのとき思わぬところで助けてもらったな…。

経営理念とは「自分がどうしたいのか？」

経営理念とは「自分がどうしたいのか？」という思いそのものです。社長の心の奥底にある、その善き思いはまわりの人に通じていますか？

